

認知症の人が安心して暮らせるまち・東京を目指して ～東京会議からのメッセージ～

私たちは「東京会議」を通じて、誰もが認知症になる可能性があり、とても身近なものとなりました。また、認知症の人も私たち同様、様々な困難を抱えつつも懸命に日々を生きる「生活者」としてと知りしました。

さらに、都民一人ひとりが認知症について正しく理解し、見守り、声をかけ合うことで、地域で暮らす認知症の人や家族が抱えている不安や困難を、わずかでも減らせると確信しました。

多くの人暮らし働く東京は、日常生活に必要なサービスや多様な文化が集積した便利なまちです。地域社会に根ざした組織や豊富な実践力を培った団体など、地域生活を支える人材も豊富です。

私たちを含め、多くの人々や機関が、普段の暮らしや仕事での関わりを通じてできることを考え、実践する。その活動に、医療・福祉の専門職を含む多様な人材が参加する。そこから、認知症の人や家族が住み慣れた地域で暮らし続けていくための「東京流の支えあい」が生まれます。

そして、認知症の人や家族からも、抱えている困難や必要な支援をお話いただくことで、私たちは具体的に行動する手がかりがつかめます。

この取組はまだ始まったばかり。これからも継続し、広げていくことが大切です。そして、東京が「認知症の人が安心して暮らせるまち」になったとき、それは「すべての人が安心できるまち」でもあると、私たち「東京会議」は考えます。

もっと知ろう 認知症。考えよう 一人ひとりができること。
できることから少しずつ。あなたも仲間になってください。

これが、東京会議から都内で暮らし、働く皆さんへのメッセージです。

最後に、「東京会議」という種が、今後、都内各地域で芽吹き、認知症の人と家族に向けた支援の花が開くよう、東京都にも更なる取組を求めます。

平成19年1月30日

認知症高齢者を地域で支える東京会議